

自然環境と子どもの育ちに関する一考察

— D幼稚園・5歳児での実践（1）—

A Study between The Children's Development and The Environment
— A Case Study of 5-year-olds in D-Kindergarten（1）—

吉田 若葉
宮本 慶子

要 旨

本稿は、私立D幼稚園の保育事例をもとに、自然環境と子どもの育ちについて考察したものである。D幼稚園と周辺自然環境については、〈四季別・自然環境一覧〉と〈自然環境への関わり・年齢別カレンダー〉として表にまとめた。

本稿における実践事例は、2006年度・5歳児の春、夏、秋の植物への関わりの主な活動を、時系列に整理したものである。実践事例に対しては、事例からの解釈を加えて、『幼稚園教育要領』に示されている5領域との関連と心情面、意欲面、態度面から分析を行い考察している。事例内容は、ジャガイモへの関わり（春）、タケノコへの関わり（春）、野の花への関わり（春）、豆への関わり（春）、ジャガイモとの関わり（夏）ドングリとの関わり（秋）の6事例である。本稿では、自然環境と子どもの育ちを考察しているため、子どもたちの体験を全て挙げるために、園庭における事例以外の活動とキャンパス・ピクニックでの活動の分析と考察を加えている。

分析の結果、自然環境への関わりは、室内活動では得られない豊かな体験ができ、全ての活動に5領域の関連と心情面、意欲面、態度面での育ちを読み取ることができた。D幼稚園の自然環境への関わりでは、保育者の配慮いかんで、まだまだ子どもの体験を深め、子どもの力を育てることが可能であるとの考察がなされた。

1. はじめに

幼児教育は、環境を通して行うことを基本としている。幼稚園や保育園の環境には、保育者や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境と自然環境などがある。こうした環境の影響を受けて子どもたちは成長していくのである。

本稿では、私立D幼稚園の保育事例をもとに、自然環境と幼児期の子どもの育ちについて考えてみたい。

筆者・吉田は、D幼稚園のアドバイザー、園長補佐として2000年9月から2007年3月まで保育に関わっており、筆者・宮本は、D幼稚園の現任教諭である。D幼稚園は、短期大学と同じキャンパス内の豊かな自然に囲まれた幼稚園であり、その環境を活かした保育を特色としている。D幼稚

園の自然環境を活かした保育の一端は、2007年6月発行の『北陸学院短期大学附属幼児児童教育研究所紀要』¹⁾において、「科目「子どもと環境」における記録写真の活用効果－『竹の生長とともに（5歳児での実践）』－」で、5歳児が竹の生長に関わった6ヶ月間の事例として紹介した。その研究内容は、記録写真を活用した授業効果についてであったが、「写真の解説」の章で実践16事例²⁾を紹介している。授業は、16事例を115枚の記録写真と解説で紹介する形で進められたが、授業を受けた学生たちの多くは、子どもが楽しく遊ぶなかでさまざまな学びをしているということを実感していた。

そこで、本稿では、D幼稚園の園生活のなかで、自然環境がどのように子どもたちに影響を与えているのかを、保育実践の記録（保育日誌、クラスだより等）から分析し、自然環境と子どもの育ちについて考察を行うものである。

2. 研究内容と方法

2. (1) 研究内容

幼児教育は、幼稚園教育要領や保育所保育指針において、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度が育つことを「ねらい」とすることが示されている。

子どもは、日常のさまざまな体験を重ねていくなかで成長していく。子どもが身近な生活とどのように関わっていくかということは、主体的な子どもの育ちに大きく影響を与えていくことになる。つまり、子ども自身の心情、意欲、態度が、その子どもの育ちにとって重要な要素となるのである。心情は、自分で精一杯取り組んだことによる充実感や満足感などの内面的な心情が育つことであり、意欲は、自分のできることを使ってやろうとするとか、うまくはできないけれどもやろうとする意欲の育ちである。態度は、子ども自身のものとして身に付くことや、積極的に取り組むといった態度である。この心情、意欲、態度は、到達度が示しにくいものであり、あくまでも、幼稚園修了までに育つことを期待する基準としてのねらいである。

保育者にとっては、成果が眼に見えて現れてくる活動の指導は比較的容易であるが、到達度として示しにくい面を指導していくことは難しい。保育は、各園の実情や実態に即したものでなければならぬし、何よりも子どもの発達に即した環境が整えられる必要がある。したがって、保育者は、どのような活動の時にも、子どもの発達を把握する目安として、いつでも心情面、意欲面、態度面に留意していかなければならない。

今回の研究では、D幼稚園の自然環境での子どもたちの体験を事例としてまとめ、子どもの心情面、意欲面、態度面がどのように現れているかを分析していく。また、幼児の発達の側面から分けられている「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域が、相互に関連をもちながら子どもの生活が形成されていることから、各領域との関連についても考えていく。そして、自然環境での体験がどのように子どもの育ちに影響を与えているのかを考察していく。

2. (2) 研究方法

私立D幼稚園の園児を対象として、2006年度の5歳児の体験を中心としている。活動内容によっては、他の年度や3歳児4歳児の活動内容を取り上げる場合もある。

まず、D幼稚園が置かれている自然環境を、幼稚園と周辺の〈四季別・自然環境一覧〉にまとめ、園児たちの体験を、〈自然環境への関わり・年齢別カレンダー〉として整理した。今回は、2006年度・5歳児の春、夏、秋の植物への関わりの実践事例をまとめ、事例からの解釈を加えて、5領域との関連と心情面、意欲面、態度面から分析し考察していく。保育実践事例は、D幼稚園教諭である宮本の保育記録とD幼稚園のクラスだより、ホームページをもとにまとめている。

3. D幼稚園と周辺の自然環境

幼稚園教育は、「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」³⁾ものであり、子どもたちが保育を通して体験する活動は、子どもたちの生活環境が十分に活かされていることが望ましい。

D幼稚園は、豊かな山の自然環境に恵まれており、短大・小学校と同じキャンパス内にある。短大の敷地が最も高台にあり、下ると小学校と農園、さらに下り公道を挟んで、学生駐車場とD幼稚園がある。子どもたちは、幼稚園の園庭で遊ぶ他、キャンパス・ピクニックと称して短大のグラウンドへ出かけ、木陰を拠点として、広いグラウンドを駆け回り、丘滑りや崖登り、探検ごっこなどをして遊ぶことができる。

キャンパスは、広い竹林に囲まれており、幼稚園の園庭にも竹林がある。その他キャンパスには、スギやヒバ、ヒイラギなどの常緑樹、イチヨウやカエデなどの落葉樹、美しい花を咲かせるサクラやキンモクセイ、そしてドングリ、クリ、グミやカリンなど実のなる木も多い。野の草花が多く、幼稚園の園庭でも、年々種類が増えてきている。高台なので、広い空の移り変わりも十二分に楽しめる。冬は平地よりも雪の量が多く雪の質もさらさらしている。幼稚園の屋根から滑り落ちる雪で屋根からのスロープができ、ダイナミックな雪遊びが可能となる。

豊かな自然環境にあるD幼稚園であるが、自然環境と関わる保育内容は、その時々の子どもたちが関われる範囲のなかで工夫されている。

3. (1) D幼稚園の自然環境一覧

本項では、D幼稚園の自然環境の事例の分析を行う前に、子どもたちがD幼稚園で体験できる自然環境を一覧できるように、整理してみた。(表-1)

日本は四季の変化があり、春夏秋冬それぞれの季節を感じることができる。表-1は、四季ごとの自然環境を、植物・動物・自然現象の3項目に分類してまとめたものである。

表-1 〈四季別・自然環境一覧〉

| 季節 | 暦の月 | 植 物 | 動 物 | 自 然 現 象 |
|----|-----|--------------------------|-----------|--------------|
| 春 | 3月 | フキノトウ | | ・植物が芽吹く |
| | 4月 | ツクシ サクラ タンポポ ムラサキサキゴケ | アリ ツバメ | ・春の風 ・春の光 |

| 季節 | 暦の月 | 植 物 | 動 物 | 自然現象 |
|----|-----|--|------------------------------------|-----------------------------|
| 春 | 5月 | 筍 スギナ(ツクシ) カキドオシ オランダミミナグサ シロツメクサ ハルジオン ヒメオドリコソウ オオイヌノフグリ スミレ ナズナ ウマノアシガタ カタバミ ハコベ タネツケバナ スズメノヤリ ハハコグサ | | ・新緑 |
| 夏 | 6月 | 豆 | クモ カタツムリ ダンゴムシ カナヘビ カブトムシ セミ | ・梅雨 ・水たまり ・雷 ・入道雲 |
| | 7月 | 竹の子 アジサイ | カマキリ カマキリの卵 | |
| | 8月 | 竹 ブラックベリー ブルーベリー | | |
| 秋 | 9月 | ジャガイモ 栗 コスモス イヌマキ(マキの実) | コオロギ バッタ トンボ | ・台風 ・うろこ雲 ・紅葉 ・落ち葉 |
| | 10月 | 竹 ドングリ カリンの実 ススキ | ゾウムシの幼虫 | |
| | 11月 | | | |
| 冬 | 12月 | モミの木 | | ・雷 ・雪 ・つらら ・氷 ・しも柱 |
| | 1月 | | | |
| | 2月 | | | |

3. (2) D幼稚園の自然環境への関わり・年齢別カレンダー

表-1において、D幼稚園の四季別・自然環境が整理された。自然環境は、言わば幼稚園自体が置かれている環境であるから、全園児で共有し感じていける環境でもある。しかし、その関わり方は、子どもの発達段階によってさまざまである。そこで、自然環境への関わりを、年齢別カレンダー(表-2)として簡単にまとめてみた。かなり略した表現になっているが、詳細は、事例で記述することとする。

年齢が上がることで新たに加わる活動については下線を引いて示してあるが、あくまでも目安であって、子どもによって3歳児が4歳児に、4歳児が5歳児の活動に加わっていることもある。

表-2 〈自然環境への関わり・年齢別カレンダー〉

| 体 験 | 年齢 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------------------|----|--|----|----|----|----|----------------|-----|-----|-----|----|----|----|
| 筍 伸びた竹の子 長い竹 竹の家 | 3 | 発見・焼筍・皮で遊ぶ | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 発見・焼筍・皮をむいて遊ぶ 折る・水、砂遊び | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 発見・掘る・焼筍の世話 根を掘る 水、砂遊び 折る 伸びたタケノコで遊ぶ | | | | | 長い竹で遊ぶ 竹の工作 | | | | | | |

自然環境と子どもの育ちに関する一考察

| 体 験 | 年齢 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------------------|----|------------------|----|-------------|----|----------------|-----------------------------------|-----|-----|-----|----|----|----|
| 野の花 | 3 | 摘む | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 探し名前を知る | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 調べて観察する 押し花 | | | | | | | | | | | |
| ジャガイモ | 3 | | | | | | 収穫 食べる | | | | | | |
| | 4 | 種芋を植える | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 畑を耕して植える | | | | | | | | | | | |
| サクラ | 3 | お 花 見 | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | | | |
| 豆 | 3 | | | 豆ご飯 | | | | | | | | | |
| | 4 | | | 食べる | | | | | 種蒔 | | | | |
| | 5 | | | 収穫 ご飯 | | | | | | | | | |
| ブラックベリー ブルーベリー | | | | | | 摘む・食べる | | | | | | | |
| 栗 | 3 | | | | | | 拾う | | | | | | |
| | 4 | | | | | | 蒸す | | | | | | |
| | 5 | | | | | | ご飯 | | | | | | |
| ドングリ | 3 | | | | | | 拾う・クッキー | | 製作 | | | | |
| | 4 | | | | | | を食べる | | 製作 | | | | |
| | 5 | | | | | | 拾う 種類と名前 を知る クッキー作り | | 製作 | | | | |
| 虫 | | 出会う | | | | | | | | | | | |
| | | 探す | | 虫取り | | | 虫取り | | | | | | |
| | | 採取して調べる | | 飼育 | | | 飼育観察 | | | | | | |
| キャンパス ピクニック | 3 | 歩く・丘登り | | | | | かけっこ 落ち葉拾い | | | | | | |
| | 4 | 歩く・丘滑り | | 虫 取 り | | デイ キャン プ | 虫取り 落ち葉拾い リレー 木の実拾い | | | | | | |
| | 5 | 歩く・丘滑り 探検・崖登り | | | | | 虫取り 落ち葉拾い 木の実拾い リレー マラソン | | | | | | |
| | | 虫取り | | | | | | | | | | | |

4. 自然環境への関わり・事例と分析

D幼稚園の自然環境への関わりは、春から秋の季節に盛んに行われる。本項では、春、夏、秋の植物への関わりを時系列で事例にまとめた。事例ごとに、解釈を加え、子どもの心情、意欲、態度にかかわると思われる箇所を下線でマークし、後の分析と考察で検討することとする。

事例の分析にあたっては、(表-3)の幼稚園教育要領の5領域で示されている心情面、意欲面、態度面の〈ねらい〉⁴⁾を参考として、具体的な実践内容の分類を行った。

表-3 〈幼稚園教育要領・5領域のねらい〉

| 領域(養う力) | 心情面のねらい | 意欲面のねらい | 態度面のねらい |
|---|------------------------------------|--|---|
| 健康 (健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。) | 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 | 自分の体を十分に動かし、充実感を味わう。 | 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 |
| 人間関係 (他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。) | 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 | 進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもち。 | 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。 |
| 環境 (周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。) | 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもち。 | 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 | 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。 |
| 言葉 (経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。) | 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 | 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 | 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。 |
| 表現 (感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。) | いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもち。 | 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 | 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。 |

4. (1) ジャガイモへの関わり (春)

4. (1) 1) ジャガイモの畑作り

〈事例〉

D幼稚園では、例年5歳児が植えたジャガイモを、全園児で収穫をして食べているので、5歳児は、今度は自分たちが育てる番だと楽しみにしている。

4/10 子どもたちとジャガイモを植える準備について話し合いをする。保育者から作業の段取りを指示するのではなく、クラスの子もたちみんなで考え力を合わせて進めていけるようにとの保育者の願いから、まず、ジャガイモ畑（ブロックで囲ってある）を見に行き、何から始めたらよいかを話し合った結果、草むしりからしようということになった。

4/12 園庭の竹林で、地面を押して出てきそうな竹の子を発見して関心が竹の子に向いてしまい、石や木の棒で何日もかけて竹の子を掘っていたので、草むしりは1週間後に行う。

4/18 「見て！草の根っこ髭みたい」「クルクルねじったらドリルみたいだよ」「これなかなかとれない」「早くジャガイモ食べたいな」など子どもどうしてコミュニケーションしながら作業をしている。取った草を一箇所に集めると、大きな山ができた。みんなで力を合わせたからできたことを実感したようだ。

4/19 草を取った後に、なんだか太い草がまだ生えていると思ってAが引っ張るが、なかなか抜けない。「先生！この草取れない！」「何で抜けないの」と周りにいたMとBも手伝って引っ張ってみるが取れない。「これ何？」「竹の子の根っこよ」と保育者が答えると「竹からこんなに遠いのにな…」と不思議そうに竹林を見る。

他の子どもたちは、バスの運転手さんが土を耕すのに使っていたスコップが気になってじっと見ている。保育者は、子どもたちの様子を察して、倉庫からスコップを出してきた。すぐに子どもたちは、「やってみよう！」「次かして欲しい」「うわっ重い！」と言いながら、かわるがわるスコップを使い始めた。重いスコップは、なかなか思うように使えない。保育者に持ち方や足を使って掘ることを個別にアドバイスしてもらって、懸命に挑戦する姿が見られ、土もだんだん耕されてきた。

竹の根っこを見つけた子どもたちが、スコップで太い草の周りを掘っていくと、「出てきた！」土の中に張り巡らされている根っこが見つかった。砂場のシャベルを持った子どもたちも集まってきて、「根っこどこまで続いているのかな」と土を掘りながら少しずつ引っ張る作業を始めた。「これってどの竹の根っこかな…」「何で、竹はむこうにあるのに、根っこが

〈事例の解釈〉

1. 3歳児クラスの時から、5歳児が種芋を植えている姿とジャガイモの芽が出て育つ過程を目にしていることと、ジャガイモを掘って食べた楽しい体験が、ジャガイモ畑を耕す意欲となっている。
2. クラスの全員で現場を見ての話し合いは、ジャガイモを植えるための段取りや方法をイメージして考えることができ、一人ひとりが意識して取り組む意欲へとつながる。
3. 発見の喜びは、興味や関心を掻き立て、活動への意欲につながる。活動が継続せずに他へ移ることもある。
4. 草むしりの感触から、ことばによる表現が生まれている。そのことばのやりとりから、懸命に取り組む様子や抜いた達成感、抜けてきた根の性質を知り根への愛着を感じている。作業の目的を自覚しジャガイモを食べることを楽しみにしている。
5. 一箇所に集めることで、明確ではないが量に対する認識が芽生えているかもしれない。
6. 困っている友達の様子を見て、手伝っている。
7. 竹の根は草の根と違うのかなと、不思議に思っている。
8. 興味の示し方として、じっと見つめたり、「やってみよう」とことばで表現する、「引っ張ってみよう」と行動するなどが見られる。
9. かわるがわる使う協調性が育っている。
10. 道具の長さや重さを感じ、道具を使うコツを習って、挑戦する。
11. 発見の喜びから関心がわき、仲間が集まり、作業の継続を生み出している。
12. スコップやシャベルで少しずつ土を掘

ここにあるんだらう…」などと話しながら続けるうちに、クラスの子もたち全員で綱引きのようにして引っ張りだした。「やったー！ やっとぬけた！」ズルズルズルと長く大きい根っこを畑の脇へ引きずって見ると、「焼きそばみたい！！」草の根とは全く違う様子に驚いたり感動したりの様子であった。

部屋に入ってから、保育者が、竹の子の絵本や図鑑を紹介すると、子どもたちはさっそく調べ、竹の根は地下茎といって、どンドンつながっていて、そこから芽がでて筍になることを知る。

4/28 畑の仕上げは、バスの運転手さんにしていただき、いよいよジャガイモを植える日になった。「ジャガイモって、ジャガイモを植えるんだ」「種イモって種じゃないんだ」とジャガイモに竹の灰をつけながら話して植えていた。

り根を引っ張る作業は、腕や手先の使い方が訓練される。

- 13. いつの間にか、クラス全員の協同作業となっている。
- 14. 根気のいる作業は達成感の喜びも大きい。
- 15. 根にもいろいろあることを目にして、図鑑などを調べて知識を深める。
- 16. ジャガイモに関する新しい知識を学ぶ。

4. (1) 2) ジャガイモの畑作りの事例分析

| 領域 | 心 情 面 | 意 欲 面 | 態 度 面 |
|---------|---|---|--|
| 環 境 | <ul style="list-style-type: none"> ・草むしりをしながら根に興味をもったり、みんなで竹の根を掘り起こして楽しみながら土を耕す。 ・みんなで、竹の根を掘り、ようやく抜けたときに、達成感の喜びを味わっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児からのジャガイモ体験が、活動全体への意欲に影響を与えている。 ・ジャガイモ畑を見て、作業の段取りを話し合ったことで作業への意欲をもつ。 ・作業中の発見の喜びが、次の活動への興味関心を掻き立て意欲となる。 ・道具への興味が作業意欲となる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児からのジャガイモ体験が、積極的に取り組む態度となっている。 ・発見したことや不思議に思ったことは図鑑で調べ、知識を深めている。 ・道具を交替で使いながら、使い方を身に付けていく。 ・抜いた草を一箇所に集めたり、竹の根を掘り起こすことで、土の性質、草の量や根の長さ、土の中の深さなどに対する感覚を養っている。 |
| 健 康 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモの畑作りを楽しんでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・竹の根を抜く作業で、十分に体力を使い、道具を使って体を動かしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなと協力して、安全に畑作りの作業を行う態度を身に付けていく。 |
| 人 間 関 係 | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなと畑作りを楽しんでいる。 ・クラスの間での話し合いで自分の考えを述べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなとの話し合いによって、お互いの意見を聞き合い、協力して作業を進めていく。 ・竹の根を抜くときは、いつの間にか、クラス全員が加わり一致団結した作業となる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・バス運転手のIさんにいろいろとアドバイスをもらって、作業の段取りや道具の使い方を学ぶ。 ・道具を、譲り合って使う。 ・みんなで協力して、作業を継続している。 |
| 言 葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・草むしりの楽しさが言葉の表現として出てくる。 ・竹の根に対する不思議や驚きが言葉として表現される。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのなかで、自分の考えを、自分の言葉で話して伝え合うことを楽しんでいる。 ・草むしりを楽しみながら、感触を言葉で伝え合おうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの会話を楽しんで、心を通わせて作業をしている。 ・竹の根やジャガイモに関して、図鑑で調べた知識を話す。 |
| 表 現 | <ul style="list-style-type: none"> ・草むしりのなかで、さまざまな物の形や感触に気付く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・草むしりや根からもイメージを楽しく表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・草むしりのなかで、さまざまな物の形や感触に気付いてイメージを表現する。 |

4. (1) 3) 考察・ジャガイモへの関わり (春)

D幼稚園では、例年5歳児が植えたジャガイモを、全園児で収穫をして食べている。ジャガイモ畑は、園庭にあり、子どもたちは、いつも遊びながらジャガイモ畑を目にしている。3・4歳児は

実際にジャガイモ畑を作る活動には参加していないが、ジャガイモの収穫までの一連の流れは、個々の子どもが感じ取っていると思われる。したがって5歳児は、3・4歳児からの体験を経てジャガイモの畑作りをするので、どの子にも活動への積極性が見られる。事例では、ジャガイモ畑を見ながら、話し合いの時をもって活動を始めている。話し合いは、「子ども自身が、自分たちの話し合いによって、自分たちで決めた、という自覚をもって主体的に取り組んでいけるように」との保育者の願いで行われている。まずは草取りからスタートした活動だが、竹の根を掘り起こすという大きな課題が出てきた。畑が竹林の近くにあり、栄養分のある畑まで地下茎が伸びてくるのである。園庭の地面の下の様子を見ることができて、様々な興味関心が湧いてきたようだ。みんなの力を合わせて取り組まなければできない作業となり、活気のある楽しい活動となったことが、事例の分析から読み取れる。そして、5領域の全てが関連した活動となっている。

4. (2) タケノコへの関わり (春)

4. (2) 1) タケノコ掘り

〈事例〉

4/12 「タケノコだ!」「すごい!タケノコ地面押してる」子どもたちは、園庭の竹林で、地面を押して出てきそうなタケノコを発見した。地面がひび割れてタケノコが少し頭を出していた。いつも遊んでいる竹林なので、地面のでこぼこした感触を足の裏で感じているようだ。入園したばかりの3歳児は、タケノコが園庭に出てくることを知らず、歩いていてつまずいて初めて気づき、「先生これなあに?」としばらくじっと見つめる姿が見られた。

「タケノコ食べたいな」「タケノコ他にもあるかな」とタケノコ探しが始まった。子どもたちは、地面に顔を近づけて真剣にタケノコを探しまわった。

「あっ、あった!」「大きいの見付けた!」と目を輝かせ、RとUは早速タケノコを掘り始めた。「硬くて掘れないね」「どうする?」手で掘ろうとしてもなかなか抜けないので、Rが近くに落ちていた小石で掘り始めた。「掘りやすいよ」の言葉に、周りにいた子どもたちが、道具になりそうな物を探し出した。「これだったら掘れそうだよ」とそれぞれが小石・木の棒・砂場のスコップなどを持ってきて、夢中で掘り始めた。「もう少ししなだけどな…」と言いながら、何日も掘り続け、やっと掘ったタケノコを大事そうに持ち帰った。「昨日タケノコのお汁おいしかった」と大満足の様子で話していた。

5/1 ジャガイモを植える作業が4月末に終わったので、クラス全員が家へ持ち帰る分のタケノコを掘ろうと話合った。数が多いので、掘りやすい鍬などの道具を使ったが、「タケノコ掘るのが難しい」と重い鍬に四苦八苦ししていた。収穫済みの

〈事例の解釈〉

1. 発見した感動を言葉で表現している。
2. 経験のある5歳は、いつもと違う感触で気付く。
3. 経験のない3歳は、つまずいて気付く。
4. 興味をもったものを、じっと見つめる。
5. 経験から、食べたい!見つけたい!という気持ちで真剣に探し回る。
6. 発見の喜びが、掘るという行為に繋がっている。
7. 問題解決を子ども同士で話し合っている。
8. 友だちの行動や言葉に刺激を受けて道具を探して掘り始めた。
9. 掘ることが夢中になるほど楽しいので何日も継続できる。
10. 自分で探して、苦労して掘ったタケノコを家に持ち帰ってお汁にして食べられた過程の満足感は大きい。
11. 持ち帰るタケノコを掘る話し合いをする。
12. 四苦八苦ししながら、新しい道具を使いこなす。

タケノコを並べながら、いつの間にか、自分たちで、全員分の数があるかを数えていた。

タケノコ掘りを終え、保育室に戻ってからタケノコについての話し合いの時をもつ。「タケノコの皮は何枚あるかな…」「100枚くらいあるんじゃない」一枚ずつむいていくと、20枚あった。むいた皮を順番に並べていくと、段々小さくなって色も変わってくることに気付く。

13. 力を合わせての作業で、連帯感が生まれている。

14. 楽しみながら調べ、タケノコについての性質などの知識を深めていく。

15. いろいろな数え方を学ぶ。

4. (2) 2) タケノコを描く

〈事例〉

5/4 4月から、園庭のタケノコを掘ったり桜の木の下でおやつを食べたりしているので、「ゆり組から見える桜きれいだね。絵に描きたいくらい」と保育者が発言すると、「描きたい!」「タケノコも描きたい」「虫も描きたい」と活発な意見が聞かれた。保育室のどこで描くかも話し合いで決める。桜を描く子は窓の近く、タケノコを描く子は、画用紙の近くにタケノコをもってきて描くことになる。

部屋中に大きなシートを敷いて、広いスペースを準備し、画用紙の大きさも自分で決められるように、大小用意しておいた。絵の具は、一箇所の机にまとめて置き、各自が小皿で好みの色を作って自分の場所へ持って行って描いた。

〈事例の解釈〉

16. 保育者の発言がきっかけとなって、絵で表現しようとする意欲が出てきた。

17. みんなとの話し合いによって、個々の子どもの絵を描くことへの関心が高められている。

18. 子どもが伸び伸びと自由に絵を描けるようにとの保育者の配慮がある。

4. (2) 3) 焼きタケノコ

〈事例〉

5/9 例年、園児たちは、バス運転手1さんのお世話で、焼きタケノコを食べている。焼きタケノコは、竹を燃やした灰(竹70~80本分)に皮つきのタケノコを入れ2時間ほどで食べることができる。1さんが、前日1日ばかりで竹を燃やして灰をつくってくださったので、タケノコは子どもたちで掘ることにした。1さんにも手伝っていただいて、大きくて重い道具のつるはしで根のところまで掘り起こすと、赤くぶつぶつしたものがついていた。「何これ!」「気持ち悪い」「おっぱいみたい」と大騒ぎになった。

自分たちで掘った20本のタケノコを運び「暑い!」「夏みたいや」といいながら、灰の中に投げ入れる。タケノコが焼けるまでの間、朝7時半に1さんが入れてくださった焼きタケノコを食べて待つことにした。薄く一口大に切った焼きタケノコに、「香ばしい!」「お醤油のにおいがする」「おいしい!」「もっと

〈事例の解釈〉

19. 毎年食べている焼きタケノコは、子どもたちにとって幼稚園での楽しみとなっている。

20. だんだん道具を使いこなせるようになってきて、根のところまで掘れるようになってきている。

21. 新たな発見の驚きを自分の言葉で表現している。

22. 大騒ぎは、発見の喜びの表現である。

23. 自分たちで掘り、運び、投げ入れるという一連の作業は、子どもたちの活気となる。

24. 灰の近くの暑さを、自分が体験した夏にたとえている。

自然環境と子どもの育ちに関する一考察

| | |
|--|---|
| <p>食べたい」「おかわり！」と大興奮。焼きタケノコの出来具合を気にしながらお弁当を食べている間に、子どもたちの焼きタケノコが焼けた。3歳児クラス、4歳児クラス、お迎えの保護者の方たちも食べにやってきて大賑わいであった。「焼きタケノコどうぞ」「おいしいですよ」と焼きタケノコを入れた大皿を2人組で持って回る姿も見られた。</p> | <p>25. 焼きタケノコの味や匂いを言葉で表現している。</p> <p>26. 楽しい雰囲気が、2人組でお皿を持って回るといふ行動を生み出している。</p> |
|--|---|

4. (2) 4) タケノコとの関わりの事例分析

| 領域 | 心 情 面 | 意 欲 面 | 態 度 面 |
|------|--|---|--|
| 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、園庭に沢山出てくるタケノコに愛着をもっている。 ・タケノコが地面を押し出てきたことに気付き関心をもつ。 ・タケノコに触れているうちに、興味や関心が深まっていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコを発見した喜びで、掘ろうとする意欲が出てくる。 ・家へ持ち帰りたい思いが、根気よく掘る意欲となっている。 ・楽しく活気ある雰囲気が、さらなる意欲を生み出している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・見つけたタケノコを掘りたい一心で、掘る道具を真剣に探す。 ・夢中になってタケノコを掘るうちに、道具の使い方を身に付けていく。 ・タケノコに愛着をもって楽しく図鑑を調べ、タケノコについての知識を深めている。 ・毎年行われる焼きタケノコの活動への積極的な姿勢が育まれている。 |
| 健康 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコ掘りや焼きタケノコをのびのびとした気持ちで楽しんでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコを掘ったり運んだりして十分に体を動かしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全に楽しく活動する態度を身に付けていく。 |
| 人間関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分で見つけたタケノコは、自分で掘って、家へ持って帰る。 ・話し合いで、自分の考えを伝える。 ・個々に焼きタケノコを楽しんで参加している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの行動や言葉に刺激を受けて掘ってみようとする。 ・話し合いのなかで、友だちの考えを聞き合っ、タケノコの絵を描くイメージをつくりあげていく。 ・互いに相手の行動を気付き合っ、焼きタケノコの活動を楽しんでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか掘れないタケノコをどうして掘るか子ども同士で話し合っている。 ・クラス全員分のタケノコがあるか、数を数える。 ・友だちと一緒に、図鑑を調べる。 ・バス運転手Iさんの援助で、作業の段取りや道具の使い方を学ぶ。 ・道具を譲り合いながら使う。 ・2人組で、焼きタケノコのお皿を持って回り、みんなにすすめる。 |
| 言葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコを発見したときの驚きや感動を自分の言葉で表現している。 ・焼きタケノコの味や匂い、灰の周りの熱気を、自分の体験したことにとえて言葉で表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの話し合いのなかで、タケノコを絵で表現するイメージをもつ。 ・友だちの言葉に反応しながら、活気のある雰囲気を楽しんでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコについての会話を楽しみながら活動をしている。 ・2人組で、焼きタケノコのお皿を持って回り、みんなにすすめている。 |
| 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・足の感触で、地面を押し出しているタケノコに気付き、興味をもったタケノコをじっと見つめる。 ・みんなの話し合いのなかで、タケノコや虫、桜の絵を描くことへの関心が高まる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの話し合いのなかで、自分なりに絵のイメージをもって表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコを並べて数え、クラスの人数分があるかを確認する ・個々のイメージを、自由に絵で表現し、友達表現も見ても楽しむ。 ・自分たちで掘り、運び、灰へ投げ入れるという焼きタケノコの一連の作業が、子どもたちの活気となっている。 |

4. (2) 5) 考察・タケノコへの関わり (春)

ジャガイモと同様に、タケノコ掘りと焼きタケノコも、毎年体験している活動である。春、子どもたちとタケノコは、つまずいたりころんだりの場面で出会う。地面を突いて顔を出したばかりの

タケノコはなかなか掘れないが、その難関に取り組むことから、子どもたちのタケノコとの関わりが始まるのである。そこには、考え、工夫し、話し合い、協力しあって創造的に取り組む子どもたちのたくましい姿を見ることができる。子どもたちが、意欲的に楽しんで取り組んでいるときは、話す言葉や表情が自然と豊かになってくる。子どもたちは、気持ちが高まり活気がでてくると、子どもの生活すべてを生き生きと表現するようになる。事例では、桜の花の美しさに感動したことをきっかけとして、身近な自然を絵で描く活動を加えている。絵では、子どもたちそれぞれの感性が豊かでダイナミックに表現された。ジャガイモの畑作りで培われた協調性は子どもたちの連帯感を強め、子どもたちの活気となっている。5領域すべてが関連した活動となっている。

4. (3) 野の花への関わり (春)

4. (3) 1) 野の花摘み

〈事例〉

4/11 鬼ごっこをしている途中に、保育者がブランコ付近で野の花を発見する。「これ何て花だったかな…」と声をかけると、「図鑑で調べてみたら」とのSの意見で、保育室には、小さな瓶に野の花を生けて、図鑑を並べたコーナーが設けられた。興味をもったSと2、3人の子どもたちが花の名前を調べていた。

4/13 朝の遊びの片付け後、11日に調べた野の花をクラスの全員に紹介する。「この花の名前は、タネツケバナといいます。」と紹介すると、「タネ!」「ツケバナだって」と言葉に反応し名前を繰り返した。「これはハコベ」の言葉には、「ハコ?!」と反応している。名前ということに関して「みんなにも名前があるよね。自分の名前を話してください。」と声をかけると、照れながらニヤニヤして自分の名前を言う。みんな互いに名前を知っているのに、自己紹介を嬉しそうに楽しんでいた。

その後の戸外遊びで、ツクシ・フキノトウ・ムラサキサギゴケなどを摘んでいた。摘んだタネツケバナをナイロン袋に集めていたTが「先生! コーヒーの臭いがする」ことを発見した。

4/28 野の花摘みが大好きになった子どもたちは、野の花を探すことを「春探し」と呼ぶようになった。「今日も春探ししよう!」と元気に園庭へ飛び出していった。

5/8 連休明けに園庭へ出てみると、園庭の様子が変わっていた。「すごくきれい!」と子どもたちは感動の声をあげた。花開いた野の花の種類が増えていてとても美しい光景であった。保育者は、テラスに、押し花シートを準備して、いつでも押し花ができるようにした。子どもたちは、摘んできた野の花を、シートに挟んで押し花にしていた。

5/11 母の日のプレゼントについての話し合いの時、「絵本

〈事例の解釈〉

1. 図鑑で調べる習慣がついている。
2. 興味のある子どもがいつでも調べられる環境が整えられる。
3. みんなが関心をもつような環境を整える。
4. 知っている言葉から連想して反応し楽しんでいる。
5. 名前を呼ばれて返事をすることは多いが、自己紹介の機会が少ないので新鮮に感じている。
6. 一つの花に興味をもって探して集めるうちに、コーヒーの臭いがするのを感じ取った。
7. 「春探し」と呼び、自分たちの活動に仲間意識をもっている。
8. 身近な環境の変化を感じ取る感性が育っている。
9. 押し花にするという目的をもって摘む。
10. 日頃行っている押し花に愛着を持って

自然環境と子どもの育ちに関する一考察

を作ってあげたい。」「押し花をはってあげたいな。」などのアイデアが出る。

6/5 「押し花できた？」とMが尋ねたので5月中に集めた押し花をみることにした。「色がきれい!」「黄色のままだね。」と感動する。保育者は、子どもたちが押し花を紙にはって透明シートでコーティングできるように、紙と透明シートを準備する。作った作品をみんなに紹介すると、「スズメノヤリだ」「オランダミミナグサはもうお庭にさいっていないよね」など花の名前を挙げながら話していた。

6/26 「先生、見つけたよ!」Dが新しく咲いた野の花を発見した。ムラサキツクサとヒメオドリコソウであった。

いるのでプレゼントしたいという気持ちになる。

11. 美しい色に対する感性が育っている。
12. 摘んだ時の色を保っていたことに対して感動している。
13. 自分で摘んで名前を調べ押し花にした花に対して愛着をもっているため名前をしっかりと憶えている。
14. 園庭の花を知りつくしているため、咲き始めた花を発見できる。

4. (3) 2) 野の花摘みの事例分析

| 領域 | 心 情 面 | 意 欲 面 | 態 度 面 |
|---------|---|--|---|
| 環 境 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介された花の名前に関心をもつ。 ・ 興味のある花を集めて楽しむ。 ・ 園庭に咲く花の変化を感じ取り感動する。 ・ 園庭に咲く野の花の名前を憶えている。 ・ 新しく咲いた花を摘んでくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないことは、友達と一緒に調べようとする。 ・ 園庭に咲く花の変化を感じ取り、野の花摘みへの関心が高まる。 ・ 準備されていた押し花シートを見て、押し花への関心をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないことは、図鑑で調べる習慣がついている。 ・ 保育室に生けてある花に関心をもって観察する。 ・ 園庭の野の花で押し花をつくる。 |
| 健 康 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭に咲く花の美しさを楽しみながら摘む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 広い園庭を歩き回って野の花を探して摘む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に気をつけて花を摘む。 |
| 人 間 関 係 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の名前を紹介することで、花の名前に関心をもち意識する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの自己紹介を楽しく聞く。 ・ 野の花摘みを、「春探し」と呼ぶことで、自分たちの活動に仲間意識をもっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないことは、友達と一緒に図鑑で調べる。 ・ 互いに、自己紹介を聞き合う和やかな雰囲気をつくる。 |
| 言 葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 耳にした言葉から、自分の知っている言葉を連想して楽しむ。 ・ 園庭に咲く花の変化に感動したことを、思わず言葉に発する。 ・ 花の匂いを感じて言葉で表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 耳にした言葉から、自分の知っている言葉を連想して伝えることを楽しむ。 ・ 見つけた花を、友だちや保育者に喜んで伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 連想した言葉をみんなで楽しむ。 ・ 押し花を見て、みんなで感想を話し合い楽しむ。 |
| 表 現 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きな花をビニール袋に集め、花の匂いを嗅いで言葉で表現したりする。 ・ 園庭に咲く花の変化を感じ取っている。 ・ 押し花の鮮明な色に感動する。 ・ 憶えている花の名前を積極的に話す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭に咲く花の変化に押し花を作りたいと思う。 ・ 愛着を持っている押し花を、大好きな人にプレゼントしたいと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 野の花摘みを、「春探し」と表現する。 ・ 押し花を作る目的で、花を摘み、押し花にする。 ・ 押し花を、透明シートでコーティングする。 |

4. (3) 3) 考察・野の花への関わり (春)

毎年春になると、園庭には次々と色とりどりの美しい野の花が咲き始め、優しく野の花を摘む子どもたちの姿が見られる。いつも親しんでいる野の花を慈しむ気持ちは、しっかりと育っており、新しく咲いた花を逃さず見つけて摘んできている。また、どの子どもも、花の名前はほとんど憶えており、新しく咲いた花の名前には、自分たちの知っている言葉を連想して楽しんだりしている。保育者が押し花シートを準備すると、子どもたちは、好きな花を摘んできて、押し花を楽しんでいる。

たくましく力強いタケノコ掘りとは対象的な優しい活動である。5領域全てに関連した活動となっている。

4. (4) 豆 (グリーンピース) への関わり (春)

4. (4) 1) 豆ごはん

〈事例〉

6/8 園庭の花壇に豆が実を付けた。4歳児クラスの秋に種蒔をした豆 (グリーンピース) である。冬を越して春になって豆の芽が出て花が咲き、「いい匂い」と喜んでいるうちに、花が終わり小さな豆ができた。収穫した豆をどうするか。保育者は、いつもの様に、子どもたちの意見を聞きながら活動を進めることにした。

「お豆どうやって食べる?」「ゆでてそのまま食べる」「豆のおつゆにしたい」「豆ご飯がいいな」などの意見が出たが、話し合いの結果、豆ご飯をつくることになった。「お米どうしようかな」と投げかけると「家にあるから持ってきてあげるよ」「じゃあ、つくりかたお母さんに聞いてくるわ」と積極的な子どもたちの言葉が聞かれた。

6/12 お米・醤油・塩など豆ご飯の材料が沢山集まってきたので、いよいよ翌日に豆ご飯をつくることになった。

6/13 まず、お米を計量カップで計る、お米をとぐ、味付けをする、の3つの役割で自分ですてみたいところを選んで作業を開始した。

計量のところでは、ボールの中のお米を5カップで計って、ザル付のボールへ入れる作業をする。お米の中に手を入れて面白そうにグルグル回している子もいるが、カップにお米を入れるたびに「すぐこぼれる!」「あー!またバラバラになった」と悪戦苦闘しながら楽しんでいる。

お米をとぐところでは、「ぼく、したことがあるよ」「お母さんがしてるのいつも見てるからできるよ」とザルのなかのお米を手際よくといでいた。とぎ汁は、ザルを上げて簡単に流す子もいるが、お母さんのように、お米に手を添え、お米が流れないようにそっと流している子もいる。

味付け担当は、炊飯器に、お米・豆・塩・醤油で味をつけてスイッチ・オン。「まだできない?」「早く食べたいな」「まだかなまだかな」と炊飯器の周りをうろうろするので、コンセントが2回も抜けてしまったが、無事炊き上がった。

炊けた豆ご飯は、ラップで包んで、26人が自分のおにぎりを作ることにした。豆ご飯のおにぎりというより、豆が1つだけ(小さい豆は2つ)のっているシュウマイのようなおにぎりで

〈事例の解釈〉

1. 種蒔から実りまでの体験が豆への愛着を育てている。
2. 花の香を感じる。
3. 子どもたちの気持ちや考えを言葉で表現する。
4. 子どもにどうするかと投げかけて、子どもの主体的な活動として進める。
5. 豆を食べた自分の体験を言葉で話す。
6. 家から材料をもってくるのは、子どもの意欲の現われである。
7. 子どもの主体性を尊重して役割を決める。
8. お米を計って移す作業を体験する。
9. 米の感触を楽しんでいる。
10. 自分の行動に伴って言葉を発する。
11. 楽しみながら身に付けて行く。
12. お母さんの様子を再現している。
13. 炊き上がりを楽しみにしていることが、行動と言葉で表現されている。
14. 豆の数よりも、自分たちでつくることが大きな喜びとなっている。
15. 自分たちが植えて、育てて、収穫して、

自然環境と子どもの育ちに関する一考察

ある。「自分でおにぎりつくって食べるのはじめて！」と嬉しそうな様子でにぎっている。

「どこでおにぎり食べるの？」と保育者が相談すると「たけのうち!」ということになった。竹の家は（前年度の5歳児が作った高床の竹の家）子どもたちみんなが大好きな場所である。さっそく自分の豆ご飯おにぎりを持って、園庭の竹の家で食べると、「最高おいしい!」「お豆好きじゃなかったけど、食べたらおいしかった」「お母さんにも食べさせてあげたいな」「ことり組にも、たんぼぼ組にも食べさせてあげたい!」と口々に話している。

作った豆ご飯だからこそ、みんなが大好きな竹の家で食べたいと思う。

- 16. 満足感を口々に言葉で表現している。
- 17. 満たされた気持ちが、大好きなお母さんや、幼稚園の3歳・4歳児への思いやりの気持ちをもたせている。

4. (4) 2) 豆ごはんの事例分析

| 領域 | 心 情 面 | 意 欲 面 | 態 度 面 |
|---------|---|--|--|
| 環 境 | ・種蒔きからの体験が、豆への愛着を育んでいる。 | ・自分の役割を懸命にこなそうと取り組んでいる。 | ・豆ご飯を作る過程を楽しんで学ぶ。 ・お米と悪戦苦闘しながらも、取り扱い方を身に付けていく。 |
| 健 康 | ・豆ご飯作りをみんなと楽しんでする。 ・園庭の竹の家で、楽しく豆ご飯を食べる。 | ・自分の役割を楽しんでいる。 | ・安全に気をつけて役割をこなしていく。 |
| 人 間 関 係 | ・豆ご飯を作る過程で、自分の役割を考え行動する。 ・みんなと一緒に豆ご飯を食べて嬉しく思う。 | ・役割をグループのみんなと協力しながらやろうとしている。 ・大好きなお母さんや3・4歳児に食べさせてあげたいと思う。 | ・豆ご飯の材料を家から持ってきて提供する。 ・それぞれの役割を、グループで話し合いながら協力して作業を楽しむ。 ・みんなで豆を分けておにぎりをつくる。 ・大好きなお母さんや3・4歳児に食べさせてあげたいと思う。 |
| 言 葉 | ・豆をどうして食べたいかを、言葉で表現する。 ・お米がこぼれるたびに、思わず言葉を発している。 ・大好きなお母さんや3・4歳児に食べさせてあげたいと話す。 | ・自分と豆との体験を言葉で伝え、友達の意見も聞いて、話し合う。 ・役割の作業をうまくやり遂げるのに、みんなで声をかけあって進めていく。 | ・豆をどのようにして食べるかの話し合いを、みんなで楽しむ。 ・みんなで作った豆ご飯を、大好きな竹の家で食べて楽しく語り合う。 |
| 表 現 | ・豆の花の香を感じている。 ・お米の感触を楽しむ。 ・お米のとぎ汁を、お母さんのように、そっと手を添えて流す。 | ・豆ご飯の炊き上がるのを楽しみに待つ気持ちが言葉や行動に現れている。 | ・みんなで作った豆ご飯は、みんなが大好きな竹の家で食べる。 |

4. (4) 3) 考察・豆（グリーンピース）への関わり（春）

豆ご飯は、D幼稚園で初めての試みであった。事例からは、豆ご飯を楽しみにしている子どもの様子が数多く読み取れる。材料を家から持ってきて、お米と悪戦苦闘する様子、炊き上がりをそわそわと待つ様子、1粒の豆でおにぎりを作って竹の家で食べるなど、子どもたちの満足した様子が伺える。

好き嫌いの多いNは、このとき初めて豆を食べることができた。種蒔きから関わってきた豆だったからだろうか、みんなと楽しんだ豆ご飯だったからだろうか。子ども自身の心情、意欲、態度の

重要性を思う。

また、楽しい気持ちが満たされているので、お母さんや、3・4歳児にも食べさせてあげたいとの思いも聞かれた。

4. (5) ジャガイモとの関わり (夏)

4. (5) 1) ジャガイモ掘り

〈事例〉

9/4 春に畑を耕して植えたジャガイモの収穫を、3歳児と4歳児も一緒にすることになった。3歳児から掘ることにしたので、5歳児は、畑の周りで見ながら、掘ったジャガイモを、畑の外に運んで並べている。自分たちが掘る番のときも、掘って運んで並べての動作を繰り返している。並べたジャガイモは、真っ直ぐではなく曲線を描いてぐるぐると渦巻きになった。その渦巻きを見て楽しんでいる子どもも大勢いる。何個のジャガイモが収穫できたのか、数えてみる。渦巻きの場合は、直線よりも数えにくく、100を数える前に分からなくなってしまった。再度、保育者も一緒に頑張って数えたところ403個の収穫であった。

数えた後はテラスへ運び、大・中・小の大きさに分けて箱に入れる作業をする。箱に分ける作業を終えると、家に持ち帰るジャガイモの袋詰めをする。「大きい1個と中くらいの2個ね」と伝えると、子どもたちは、真剣に選び始めた。少しでも大きいのを入れようと、いろいろなジャガイモを触って見たり比べて見たりしている。「Kちゃんの大きい大きいになってる!!」「S君大きいのばっかりずるい!!」と友だちの分も比べている子もいる。

それぞれ自分の分を入れ終えてから、3・4歳児の分の袋詰めもスムーズに終える。園児数は90名なので、まだ100個以上のジャガイモが残っている。

9/5 家へ持ち帰ったジャガイモは、蒸してバターをつけて食べたり、味噌汁で食べた子が多かった。フライドポテトにしてお弁当にもってきた子もいた。幼稚園では、蒸して食べることにした。大きいジャガイモは切り分けるので、5歳児が、全園児分50個あまりのジャガイモをテラスの水道の水で洗い、蒸し器に並べた。台所で蒸してもらって、みんなで食べる。「モチモチしてる」「おいしい!」「もっとおかわりある?」と嬉しそうに食べていた。

ジャガイモへの愛着や食べた感動を表現につなげようと、保育者が「ジャガイモの絵を描いてみない」と提案する。紙・絵の具・描くスペースなど、全て子どもがやりたいようにできる

〈事例の解釈〉

1. 豆ご飯のときに、3歳児4歳児を思いやる気持ちをもっていたので、彼らを見守ることができる。
2. 掘る・運ぶ・並べる作業を根気よく繰り返しているのは、その活動を楽しんでいるからであり、その動作にも慣れて身についてくる。
3. 丸いジャガイモの面をくっつけて並べるので、真っ直ぐでなく、渦巻き状になってしまう。
4. 数を数えるときは、目でジャガイモを追いながらしなければならぬので、渦巻きのジャガイモは数えにくい。
5. 触ったり比較して、物の大きさに対する認識ができる。
6. 大きいジャガイモを欲しいという真剣な気持ちが、行動や言葉で表現されている。
7. 繰り返すことで身についてスムーズにできるようになる。
8. 家へ持ち帰り食べる。
9. 自分で収穫したジャガイモを、みんなで食べる嬉しさを、表情や言葉で表現している。
10. 感動を絵で表現する。活動は一斉に行われているが、子どもの表現は一人ひとりの主体的な表現である。
11. 最も印象に残ったことを描いている。

自然環境と子どもの育ちに関する一考察

| | |
|--|---|
| <p>よう環境を整えて置く。ジャガイモを近くに置いて描く子、画用紙いっぱい何個も描く子、土の中のジャガイモを描く子、ジャガイモを掘っている自分を描く子、友だちの様子を描く子など、個々に印象に残っていることを表現しているようだ。ジャガイモは紫、赤、オレンジなどカラフルな色で表現し、凹凸のあるジャガイモの形を表現しようとする子が多かった。</p> | <p>12. ジャガイモの形に関心を持っている。 13. ジャガイモの色は、実物の色ではなく、自分の好きな色で描いている。</p> |
|--|---|

4. (5) 2) ジャガイモ掘りの事例分析

| 領域 | 心 情 面 | 意 欲 面 | 態 度 面 |
|---------|---|--|---|
| 環 境 | <ul style="list-style-type: none"> ・春に植えたジャガイモの収穫を楽しみにしていた。 ・ジャガイモを掘る・運ぶ・並べる作業を繰り返し楽しむ。 ・渦巻き状に並んだジャガイモの列を見て楽しむ。 ・ジャガイモを家へ持って帰れることが嬉しい。 ・ジャガイモをみんなで食べることを楽しみにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみにしていたジャガイモの収穫なので、意欲満々である。 ・家へ持って帰るジャガイモは、少しでも大きいのを選ぼうとする。 ・みんなで食べることを楽しみにしてジャガイモを洗い準備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモを掘る・運ぶ・並べる作業を根気よく繰り返し楽しむ。 ・繰り返しすることで、作業に慣れ作業が身に付いてくる。 ・ジャガイモを渦巻き状に並べたので、数を数えるときに数えにくく、一生懸命に数える。 ・ジャガイモを触ったり比較して大・中・小に分け、袋詰めを楽しむ。 ・ジャガイモを掘る・運ぶ・並べる・分ける・洗うなどの作業で、凹凸のあるジャガイモの特長を知り、扱う感覚を身に付ける。 |
| 健 康 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモ掘りを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモを掘る・運ぶ・並べる作業を根気よく繰り返し体を十分に動かす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモの掘り方や、みんなで掘るときのマナーを身につける。 |
| 人 間 関 係 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモを掘る・運ぶ・並べる作業を根気よく繰り返し楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業が、スムーズに運ぶように、協力して楽しんでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3・4歳児がジャガイモを掘っているときは、畑の周りで見守り、ジャガイモを畑の外へ運び出す。 ・ジャガイモを掘る・運ぶ・並べる作業をみんなで力を合わせて、根気よく繰り返し楽しむ。 |
| 言 葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を交わしながらジャガイモ掘りを楽しんでいる。 ・家へ持ち帰るジャガイモを選ぶときに、友達の大きさをチェックして大声をあげている子がいる。 ・蒸したジャガイモを食べた感触を言葉で表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・掘って並べたジャガイモの数をみんなで数える。 ・家へ持ち帰ったジャガイモをどのように料理して食べたかを話し、友達の話しを聞く。 ・みんなで掘ったジャガイモを蒸して食べながら会話を楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモを掘る・運ぶ・並べる・分ける・洗うなどの作業の過程は、子どもたちの言葉のやりとりが中心となって、協力して進められる。 |
| 表 現 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモの大きさを、触ったり比較してみている。 ・家へ持ち帰るジャガイモは、少しでも大きいのを取ろうとする。 ・嬉しい表情で、みんなとジャガイモを食べる。 ・ジャガイモをテーマとして、自分の描きたいように絵で表現する。 ・絵では、ジャガイモの凹凸を表現する子が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・収穫したジャガイモの数を数えるために、運んだジャガイモを1個ずつ並べる。 ・みんなで収穫したジャガイモをみんなで食べる満足感が会話や表情から読み取れる。 ・ジャガイモの体験やイメージを、どのように表現するかを考えて、工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモの面を合わせて並べたので、渦巻き状になる。 ・家へ持って帰る自分のジャガイモを確保した後の3・4歳児の分の袋詰めは、みんなで協力してスムーズに行う。 ・ジャガイモをテーマに、個々の印象をイメージして工夫したアイデアを絵で表現する。 |

4. (5) 3) 考察・ジャガイモとの関わり (夏)

ジャガイモ掘りは、幼稚園全体の活動として例年行われている。3・4・5歳児が一緒に活動することは、互いに刺激を受け、よい影響を与え合うことができる。5歳児は、3・4歳児の活動を見守り必要なときに手助けをする。また、3歳児は4・5歳児の行動を、4歳児は5歳児の行動を目にして、いろいろと影響を受けている。

協同作業ではお互いに思いやりをもって譲り合う5歳児だが、家へ持ち帰るジャガイモに関しては、我先にと少しでも大きいジャガイモを手に入れようとする姿が見られ、子ども自身の意識が、はっきりと態度として表れてきていることがわかる。

400個ものジャガイモを、掘る、運ぶ、並べる、分ける、洗うなどの作業を繰り返すなかで、凹凸のあるジャガイモの性質を知り、どのように取り扱ったらよいのかという感覚を身に付け、子どもたちは個々に、ジャガイモのイメージを豊かにしている。ジャガイモの絵を描いたときには、ジャガイモの凹凸を表現した子が多かった。描いた色は、茶色っぽいジャガイモではなく赤、紫、オレンジなどカラフルで、一人ひとりの子どもたちのジャガイモのイメージが、ダイナミックに表現された。

一連の活動の最後に、蒸したジャガイモを食べている。1個を一口大に切り全園児で分け合って食べている。たとえわずかの分量であっても、子どもたちは十分に満足して食べていることが読み取れる。5領域がすべて関連している活動となっている。

4. (6) ドングリとの関わり (秋)

4. (6) 1) ドングリ・クッキー

〈事例〉

9/14 毎年恒例の「ドングリ・クッキー」を今度は自分たちが作ると楽しみにしている。幼稚園の前の駐車場のところで、ドングリを見つけたMが「これでドングリ・クッキーつくろう」と早速はなしている。

9/21 みんなで、ドングリのことが気になって、もう一度探しにいったが、30個ほどしか見つからない。幼稚園に帰ってから、子どもたちとの話し合いをもつ。「みんながたんぼ組のときドングリどのくらい拾ったか憶えてる?」「袋がこーんなにいっぱいになった」と手で表現した。「たくさんドングリあったよね…」「今年はあるまいね。どうしてかな?どこにいけばあるかな?」との保育者の問いかけに、「ドングリある場所って知らない!」「公園とか行けばあるかな…」「みんな探してみる?」「あっ!家のおにいちゃん学校の帰りにいっぱい拾ってたよ」「小学校の近くにはあるかな?」とみんなで考えて話し合っている。

10/24 9月の話し合い後、少しずつドングリ集めをしたが、不作の年で、なかなか集まらず、クッキー作りを諦めようと考

〈事例の解釈〉

1. 毎年5歳児の「ドングリ・クッキー」を3・4歳児も楽しみにしている。
2. ドングリについての話し合いをする。
3. 4歳のときのドングリ拾いの体験を思い出して、言葉と動作で表現する。
4. ドングリがどこへ行けば見つかるかをみんなで考える。
5. ドングリを拾ってきた兄のことを思い出し、みんなに伝える。
6. ドングリ・クッキー作りを諦められずドングリを捜しに行く。

えた。それでも念のため、近くの神社へ行ってみると、大きな木の下に「あった!」「つるつるのあったよ」「いっぱい落ちているよ」「ドングリ見つかってよかった」と子どもたちは大興奮。これでドングリ・クッキーが作れるとほっとしながら、袋いっぱい(みんなの分を集めてスーパー袋一袋)に拾った。

10/30 24日にみんなで探してきた分と、それぞれの家から見つけて持ってきた分のドングリを集めて下ごしらえをする。ドングリを洗って、殻がむきやすくなるようにフライパンで炒る。「においするね!」「いいにおい」フライパンに鼻を近づけて、香ばしい匂いを楽しんでいる。

炒ったドングリの殻をむこうとするが、手ではなかなかむけない。「かたいね」Tは「手が痛くなってきた!」と指に力を入れてやっと1個むいた。「ドングリむくと、ピーナッツみたい」と嬉しそうに話している。

そのうち子どもたちは、椅子の脚の下にドングリを挟んで、座ったはずみにドングリが割れる方法を思いついた。「ぼくもやってみよう」と真似て試しはじめの子もいるが、ドングリがはじけ飛んでしまうこともある。その後、いろいろと工夫して、箱積み木の下に置いて思いっきり叩いて割る方法を発見した。

殻をむいた後、鍋で十分煮てアク抜きをする。どんどん茶色に変化していく色と臭いに「くさいね…」「これがアクなんだ」と納得している。

11/2 子どもたちが登園してすぐに、ドングリ・クッキーづくりを開始する。「今日作るんだよね!」と、朝の所持品整理も手早く終えて、待っている。

①小麦粉・バター・砂糖の材料を量る、②小麦粉をふるう、③バター・砂糖・卵・小麦粉・小さく砕いたドングリを混ぜる、④混ぜた生地を丸める、の4つの役割に分担して作る。子どもたちにとっては、初めての取り組みなのに、トラブルもなく自然と力を合わせて取り組んでいる。「順番にしよう。はい、次Aちゃんね」と粉ふるいを渡したり、混ぜるときは、自然とボールを持って支えている。

焼きあがったドングリ・クッキーは、「竹の家で食べたい!」という意見が多かったので、園庭の竹の家で食べる。「おいしい!」「もっと食べたい!」「お母さんにも食べさせてあげたいな」「明日もつくりたい」とますます意欲的になっていた。

ドングリ・クッキーは、1日に2回焼き、砕いたドングリは冷凍保存して置くので、毎日ではないが、15回程度で1,000個以上も作る。作る度に、4つの役割を自由に交代していくので、子どもたち全員が、全ての工程を体験できることになる。

7. ドングリを発見した喜びを言葉で表現する。一生懸命に集める。
8. クラス全体で殻割りとアク抜きをする。
9. ドングリを炒る匂いを表現する。
10. ドングリの殻を指に力を入れてむく。
11. ドングリの殻から出した匂いを言葉で表現する。
12. ドングリの殻の割り方を考えて工夫する。
13. ドングリを煮てアク抜きをしている臭いを感じている。
14. ドングリ・クッキー作りを楽しみに、早くしたいという気持ちでいる。
15. みんなで協力して作業することには慣れているので、順番に譲り合うことや手助けすることが身に付いている。
16. 楽しく食べるときは大好きな竹の家で、と意見がまとまる仲間意識が育っている。
17. 繰り返して、作るうちに、身に付いてくる。

4. (6) 2) ドングリ・クッキーの事例分析

| 領域 | 心 情 面 | 意 欲 面 | 態 度 面 |
|---------|---|---|---|
| 環 境 | <ul style="list-style-type: none"> ・3・4歳で食べてきたドングリ・クッキー作りを楽しみにしている ・ドングリを拾った感触や、炒ったときの匂い、あく抜きの色や臭いに関心をもつ。 ・ドングリ・クッキーを作る日は、嬉しくて、所持品整理もすばやくして待機する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不作で集まらないドングリ拾いについて自分の意見を伝える。 ・ドングリ・クッキーを作る日は、みんなで所持品整理をすばやくして待機し、楽しみにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな所へ行って、みんなでドングリを集める。 ・硬いドングリの殻を割るときの指の力の加減を知る。 ・ドングリの殻の割り方をみんなで考え工夫して身に付ける。 ・ドングリ・クッキーを作る過程で、量る、振るう、混ぜる、丸める、の4つの役割を分担し、材料の性質や扱い方を学び、繰り返しやって身に付ける。 |
| 健 康 | <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリ拾いを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリを探して、いろいろな所へ歩いて出かける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手をつないで2列になって道を歩くマナーを身に付ける。 ・安全に楽しく活動する態度を身に付ける。 |
| 人 間 関 係 | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでドングリ・クッキーを作ることを楽しみにしている。 ・ドングリ拾いを楽しむ。 ・ドングリの殻の割り方に関心をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不作で集まらないドングリについて自分の体験をはなし、みんなで考えを伝えあう。 ・諦めかけたドングリを見つけた感動をみんなで分かち合う。 ・ドングリの殻の割り方をみんなで考え工夫して伝え合う | <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリがどこへ行けば見つかるかを、みんなで考えて実行する。 ・やっと見つけたドングリをみんなで一生懸命に拾う。 ・みんなで譲りあい、助け合い協力してドングリ・クッキー作りをする。 ・みんなと一緒に、大好きな竹の家でドングリ・クッキーを食べようという仲間意識が育っている。 ・3・4歳児や家族のために、ドングリ・クッキーを作る喜びを感じる。 |
| 言 葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・4歳のときのドングリ拾いのことや自分の体験を言葉で表現する。 ・ドングリを見つけた喜びを言葉で表現する。 ・ドングリを炒る匂いや、あく抜きの臭いを自分の知っている言葉で表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不作で集まらないドングリについて自分の体験や考えを伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと心を通わせて、楽しくコミュニケーションをとりながらドングリ拾いをしてドングリ・クッキーを作り食べる活動を楽しんでいる。 |
| 表 現 | <ul style="list-style-type: none"> ・4歳のときのドングリ拾いのことや自分の体験を表現する。 ・ドングリを炒る匂いや、あく抜きの臭いに気付く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不作で集まらないドングリをどうして集めるかについて自分の意見を伝える。 ・みんなと一緒に、大好きな竹の家でドングリ・クッキーを食べようという仲間意識で意見がまとまる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリの感触や匂いに気付き、友達と表現して楽しんでいる。 |

4. (6) 3) 考察・ドングリとの関わり (秋)

ドングリが不作であった年の事例である。D幼稚園では、ドングリ・クッキー作りは2003年から恒例となっており、5歳児は、今度は自分たちが作る番だと思い込んでいるので、不作のドングリを集めるのに、みんなで知恵を出し合い話し合っている。神社でドングリを見つけたときの喜びは大変なものであった。細かく砕いたドングリは冷凍保存をして置くので、2週間ほどの間に15回程度焼き1,000個以上も作る。家族の方にも、3・4歳児にも、未就園クラスの子どもの分も作っている。ドングリ・クッキーの甘い匂いが、幼稚園中に広まり温かく幸せな期間である。

5領域すべてが関連している活動となっている。

自然環境と子どもの育ちに関する一考察

4. (7) 1) 園庭における事例以外の活動の分析 (春、夏、秋)

| 領域 | 心 情 面 | 意 欲 面 | 態 度 面 |
|---------|--|--|---|
| 環 境 | <ul style="list-style-type: none"> ・四季の変化を感じ、味わう。 ・広々とした環境のなかで解放感を味わっている。 ・竹林の中にある竹の家で、心地よい風を感じて過ごす。 ・虫に関心をもつ。 ・木の葉に関心をもつ。 ・ブルーベリー・栗・マキの実などの木の実に親しむ ・木の実を取ることに関心をもつ。 ・栗拾いをする。 ・落ち葉に親しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・木登りをして、木の実を取ろうとする。 ・タケノコの皮や野の花、葉っぱや砂で遊ぼうとする。 ・虫を捕まえようとする。 ・ブラックベリーやブルーベリーを摘んで楽しむ。 ・みんなで栗拾いをして、食べ方を話し合う。 ・落ち葉の感触を楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・木登りをする。 ・竹林の中にある竹の家で、みんなと一緒に、楽しく過ごす。 ・タケノコの皮や野の花、葉っぱや砂で遊びながら、その性質を感じ、数や量の感覚が豊かになり、遊びを発展させることができる。 ・虫を捕まえて遊んだり、図鑑で調べて観察する。 ・ブラックベリーやブルーベリーを摘んで食べて、実を味わう。 ・拾った栗を、蒸したり栗ご飯にして、みんなで楽しく食べる。 ・落ち葉の性質を知り、製作する。 |
| 健 康 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然の広々とした園庭で解放感を味わう。 ・木登りや竹の家で、高い所からの眺めを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園庭にあるさまざまなものと思う存分に関わって遊ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・木登り、栗ひろい、栗ご飯を炊くときの火など、危険のないように気をつけて行動する。 |
| 人 間 関 係 | <ul style="list-style-type: none"> ・虫取りや木登りなど自分で取り組んで楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコの皮や野の花、葉っぱや砂でおままごとなどを友だちと楽しむ。 ・木登りで友だちの援助をする。 ・みんなで栗拾いをして、食べ方を話し合う。 ・みんなで食べる木の実を、木に登って取る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・木登りや虫取りなど、友だちと一緒に楽しみ関わりを深めて行く。 ・拾った栗を、蒸したり、栗ご飯にして、みんなで楽しく食べ交わりを深める。 ・みんなで木の実を分けて食べる。 |
| 言 葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコの皮の感触や花の美しさ、虫を捕まえて感じたことなどを自分の言葉で表現する。 ・落ち葉に関心をもって、自分の言葉で表現する。 ・自然を表現した詩に関心をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコの皮や野の花、葉っぱや砂でおままごとをして言葉のやりとりを楽しむ。 ・木登りの登り方を工夫したり、木の実の取り方を話し合うなど、言葉のやりとりを楽しむ。 ・落ち葉の感触をみんなで伝え合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然の豊かさを味わいながら、友だちや保育者との楽しい会話で心を通わせる。 ・落ち葉の詩を朗読する。 |
| 表 現 | <ul style="list-style-type: none"> ・園庭にある様々な自然に関心をもち知ろうとする。 ・タケノコの皮の感触や野の花の美しさ、木の幹や葉っぱの質、形など素材のおもしろさを感じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコの皮や野の花、葉っぱを使って遊ぶ。 ・いろいろな枝ぶりの木を感じて登る。 ・好きな虫の様子を捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タケノコの皮や野の花、葉っぱや砂でおままごとをして、自由に想像の世界を楽しむ。 ・好きな虫をイメージして、粘土で作ったり、絵を描く。 ・落ち葉で製作を楽しむ。 |

4. (7) 2) 園庭における事例以外の活動の考察 (春、夏、秋)

4. (7) 1) 園庭における事例以外の活動の分析 (春、夏、秋) は、文字通り、4. (1) から (6) までの事例以外の、園庭の自然環境と子どもたちの関わりについての分析である。環境の心情面に記述してあるように、子どもたちは、豊かな山の自然に囲まれた園庭で、四季の変化を感じそれぞれの季節を満喫している。広く大きな空と木々の緑に包まれた園庭に立つだけで、心が解放される。子どもたちは、広い園庭での遊びに飽きることがない。子どもたちは、竹林の竹の家や六角形のプレイハウス、丸太や切り株、砂場も動線の中に組み込んで遊びを展開している。

特に、園庭の木登りは、子どもたちに人気の遊びである。3歳児は、一番低い枝にぶらさがる程度だが、登れる4・5歳児を羨ましく思い憧れている。4歳になると台に乗ると枝に足が届くので

登れるようになる。しかし、一番高い所まで登れる子はまだいない。5歳になると、ほとんどの子どもが、台を置かずに枝に脚をかけることができ、高いところまで登れるようになる。木によって、枝ぶりや木肌の感触が違うので、木によって登り方も異なる。3歳児から5歳児まで、それぞれの体の発達に応じて自分でチャレンジしていく。子ども自身のペースで取り組んでいるので、落ちて怪我をすることもない。必死に頑張ろうとしている子やそれを見てアドバイスして励ます姿もみられ、5領域がしっかりと関連している活動である。木登りは、高い所からの眺めが魅力のひとつとなっていると思われるが、子どもたちの大好きな竹林の中の竹の家も床が高く、心地よい風を感じることができる場所である。

子どもたちの木の実への関心も高く、8月には、ブラックベリーやブルーベリー摘みを楽しんで味わい、9月に栗拾いをして、10月には、木に登ってマキの実を取って食べている。カリンの実はハチミツに漬けるが、枝が広がっているので取りにくく木を揺らして落としている子がいる。マキの実は、木登りの得意な子がみんなに取ってあげている。栗は、蒸して食べ、戸外で栗ご飯も炊いて食べる。栗ご飯は、竹で作ったお釜で炊くので格別の美味しさである。

その他、タケノコの皮や木の葉は、子どもたちの想像力を大いに刺激するので、創造的な遊びが行われている。園庭での遊びは、それぞれに5領域の関連がみられ、子どもたちの心情面、意欲面、態度面にも子どもの健全な育ちが読み取れる。

4. (8) 1) キャンパス・ピクニックでの活動の分析

| 領域 | 心 情 面 | 意 欲 面 | 態 度 面 |
|---------|--|--|--|
| 環 境 | <ul style="list-style-type: none"> ・広々としたグラウンドで豊かな自然に囲まれてのびのびと過ごす。 ・自然の変化(2週間~1ヶ月間隔)に気付く。 ・高い丘に立って、空の広さや遠くの景色、見下ろす景色を味わう。 ・グラウンド周辺の自然に関心をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園よりも広々としたグラウンドの自然のなかで、いろいろな遊びに取り組む。 ・グラウンド周辺の探検をして、様々な発見を楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・広々としたグラウンドで、みんなと一緒に十分に体を動かしたり、周囲の自然に触れて楽しむ。 ・グラウンド周辺の地理や自然を把握していく。 ・道路の歩き方やマナーを身につける。 |
| 健 康 | <ul style="list-style-type: none"> ・広く豊かな自然を感じのびのびと動ける。 ・山道を歩くことを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・坂を歩いて上り、広いグラウンドで思いっきり駆け回ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・坂を歩いて上り、広いグラウンドを駆け回り、丘を登ったり、転がったり、滑り降りたりする。 ・危険な場所へ行かないことや、危険な行動をとらない態度が身につく。 |
| 人 間 関 係 | <ul style="list-style-type: none"> ・危険のないように自分で考えて行動する。 ・園外の道路やグラウンドへ出かける時のルールに関心をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園よりも広々としたグラウンドの自然のなかで、友だちと一緒にいろいろな遊びに取り組む。 ・探検しながら発見したことを伝え合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・坂を歩いて上り、広いグラウンドを駆け回り、丘を登ったり、滑り降りたりするなかで、集団でのルールを身につける。 ・みんなと、心を合わせて探検する。 |
| 言 葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・発見したことを、自分の言葉で表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・探検しながら、発見したことを伝え合う。 ・道路の歩き方やマナーを、互いに伝え合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス・ピクニックでの体験を話し合う。 |
| 表 現 | <ul style="list-style-type: none"> ・丘の草や山道の空気や触さまざまな物の感触に気付く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・山道の草花や落ちている木の枝などを取って楽しむ。 ・歩いている周辺に目を向けて表現したくなるものを探す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高く、広い空間で自分を表現する。 |

4. (8) 2) キャンパス・ピクニックでの活動の考察

キャンパス・ピクニックは、同じキャンパス内の高台にある短大・グラウンドを拠点とする活動である。グラウンドまでは、横断歩道を渡り、坂道を登っていかなければならないので、子どもたちにとっては、幼稚園での動きとはまた違う運動ができる。キャンパス・ピクニックは、2週間から1ヶ月の間隔で出かけるので、木の葉や野の花の移り変わり、虫の成長など自然の変化が著しく感じとれる。道を歩きながら、目に入ってくるものを立ち止まって見入るという体験が、子どもたちにとっては楽しく貴重な時間となる。目的地までは、4・5歳児が3歳児の手をつないで行くこともある。集団で道路を歩くときのマナーも、このときに身に付けることができる。

広いグラウンドの奥には、グラウンドの幅で高い丘が広がっている。丘に登って、転がり降りたり、滑り降りたり、駆け回ったり、全身を十分に動かして楽しむことができる。また、丘に立つと、広い空と一体になったような感覚を味わえ、大きく感じていた短大の建物を眼下に見下ろせるなど、いつもと違う感じ方や物の見え方を体験することができる。視点が変化すると、発見や気付きも新鮮になるように思う。キャンパス・ピクニックでは、健康面での育ちが大きいですが、5領域の全てが関連した活動となっている。

5. まとめの考察

本項4. では、2006年度・D幼稚園5歳児の春、夏、秋の植物への関わりの活動事例に対し解釈を加え、5領域との関連と心情面、意欲面、態度面からの分析と考察を行った。

活動内容は、ジャガイモへの関わり、タケノコへの関わり、野の花への関わり、豆への関わり、ドングリとの関わり、園庭における事例以外の活動、キャンパス・ピクニックでの活動である。

分析の結果、自然環境への関わりが、室内活動では得られない豊かな体験となり、全ての活動に5領域との関連と心情面、意欲面、態度面での育ちを読み取ることができた。

D幼稚園の自然環境における子どもたちの心情は、広い豊かな自然のなかに身を置くだけでも満たされているように思う。また、自然環境は、言わば幼稚園自体が置かれている環境であるから、全園児で共有し感じていける環境でもある。関わり方は、子どもの発達によって異なるが、活動の楽しさを知っているだけに関心も高く、3年間で意欲面の育ちも深まってくると考えられる。確かに、どの活動にも子どもたちの積極的な意欲が感じられ、態度面では、子ども同士の思いやりや連帯感の育ちが見られる。常に子どもたちの活気が感じられるということは、心情、意欲、態度の相乗効果があると思われるが、話し合いの効果も大きいと考えられる。どの事例においても、保育者と子どもたち、あるいは、子ども同士の話し合いがもたれている。この話し合いには、「クラスの子どもたちみんなで考え力を合わせて進めていけるように」との保育者の願いがあった。保育者が願いをもって保育することの重要性を思う。

6. おわりに

実践事例それぞれの活動で指導にあたった筆者・宮本は、事例分析を行ってみて、現役保育者として、保育者の視点の重要性について痛感させられた。それは、保育者が子どもの発見や活動の様子を見過ごすことがあるという点である。

吉田 若葉・宮本 慶子

例えば、ジャガイモの畑作りでは、草むしりという作業のなかで、子どもたちは、いろいろな草の根っこや、地下茎の不思議さに気付いている。「竹からこんなに遠いのに」と土を掘り起こして見えてきた竹の根と竹林との距離の長さを不思議に思っていた。保育者は、図鑑で地下茎についての知識を得たのでよしとしていたが、竹のところまで掘り進めて、地下茎の長さを実感する体験があってもよかったと思う。そして、いろいろな草花の根っこについて取り上げるべきであったと思っている。2学期に入ってから、子どもたちが、雨上がりの園庭でよく草むしりをしていたことがあった。水溜りで根っこについた土をバシャバシャと洗って集めていた。集めた草を並べ、大きなたらいの中に入れて、毎日テラスに保存していたことがあった。これは、春の草むしりの体験からつなごうとした遊びだったと考えられる。保育者が、その活動を見逃さず、根に関する話題を取り上げていたならば、子どもたちの体験はもっと深く広いものになっていたのかもしれない。

また、押し花のときに、いろいろな葉を集めていたので、木と葉について調べ、春の葉と秋の葉の変化に対して意識した活動の工夫もあってもよかったように思う。ドングリを探していろいろな所を歩きまわったのであれば、ドングリ・マップを作成する活動へと発展することもできた。

ドングリ・クッキー作りは、4年続いた活動であった。そのため、保育者自身がクッキーを作る活動に慣れてしまって、子どもの新しい発見や気付きを見落としていたことにも気付いた。活動の記録が少なく、子どもの様子が具体的に出ていなかったのである。子どもたちは、体験の一つひとつを楽しみ、気付き、面白さを感じている。保育者には、子どもたちの興味や関心を見逃さず、共感し汲み取る心の余裕と子どもとともに活動を発展させることのできる創造性が必要である。

【注】

- 1) 吉田若葉「科目『子どもと環境』における記録写真の活用効果 -『竹の生長とともに(5歳児での実践)』-」
『北陸学院短期大学附属幼児児童教育研究所 紀要 2007』p.77-93 2007年
- 2) 吉田若葉「科目『子どもと環境』における記録写真の活用効果 -『竹の生長とともに(5歳児での実践)』-」
『北陸学院短期大学附属幼児児童教育研究所 紀要 2007』p.79-87 2007年
- 3) 文部省告示『幼稚園教育要領』p.1 ぎょうせい 平成10年
- 4) 文部省告示『幼稚園教育要領』p.4 p.6 p.7 p.9 p.10 ぎょうせい 平成10年